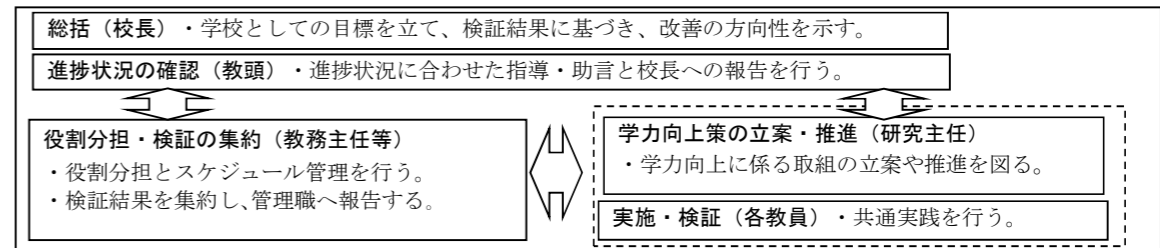


研究主題

副題



	学期	児童生徒の現状・課題	原因・要因	重点的に行う取組	検証の方法と指標		結果の検証
					児童生徒の状況	教師の指導・取組の状況	
授業で行う取組	一学期	<ul style="list-style-type: none"> 問題文や友達の考えなどを十分に理解しないまま、授業に参加している児童がいる。 分からないことを自ら質問したり調べたりすることに対して苦手とする児童がいる。 国や県の学力調査や12月の5年生の評価問題において、算数では問題の意味の把握や算数用語の理解や式、図や数直線を使っての説明に課題が見られた。 	<ul style="list-style-type: none"> 教員の問い返しや児童の考えをつないでいく手立てが不足しているため、児童全員の理解が十分でないまま授業を進めてしまうことがある。 友達の考え等を十分に理解しながら聴くこと、友達に自分の考えを分かりやすく話すことの経験が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のめあてをつかみませす」 授業の中に、言葉や問題の意味を捉えたり、確認の場面を入れる。 「自分の考えを伝えあいます」 授業の中で友達の考えを説明する時間をとったり、問い返したり、他児の考えとつなげて説明したりする場面を作る。 	方法 (1) 「分からないことを質問したり、調べたりすることができたか」 (2) 「友達の考えを説明することができたか」 (児童アンケート)	(1) 「授業の中で言葉や問題の意味をとらえたり確認の場面を入れたか」 (2) 「友達の考えを説明する機会を児童全員につくったか」 (教員アンケート)	授業の中で言葉や問題の意味をとらえたり、確認の場面を入れたりし、友だちの考えを説明する機会を児童全員につくるよう全教師で取り組むことができた。分からないことを質問したり、調べたりしていると肯定的にとらえている児童が90%を超えているが、説明できている児童が80%と十分ではない。説明する場を設定するだけではなく、さらなる手立てが必要である。
	二学期	<ul style="list-style-type: none"> 問題文や友達の考えなどを十分に理解しないまま、授業に参加している児童がいる。 分からないことを自ら質問したり調べたりすることに対して苦手とする児童がいる。 国や県の学力調査において、算数では、式や求め方を言葉で説明したり、言葉を式に表したりすることに課題が見られた。社会では、資料を読みとり考察すること、国語では、文章と図表を結び付けて説明することに課題が見られた。 児童のつぶやきや単語の発言が多い。聞く姿勢がくずれる。 	<ul style="list-style-type: none"> 授業の理解度をノート指導などで確認することが少ない。 友達の考え等を十分に理解しながら聴くこと、友達に自分の考えを分かりやすく話すことの経験が不足している。 複数の資料を比較したり、疑問をもちながら学習への課題意識を高める経験が少ない。 「話す」「聞く」に対する教員の意識が不足している。 	<ul style="list-style-type: none"> 「学習のめあてをつかみませす」 授業の中に、言葉や問題の意味を捉えたり、確認の場面を入れる。 「自分の考えを伝えあいます」 授業の中で友達の考えを説明する時間をとったり、問い返したり、他児の考えとつなげて説明したりする場面を作る。 図や資料から分かることは何かを確認した上で、分かったことから考えられることは何かを考えられるよう、視点を与えるなど見方・考え方を指導する。 考えたことを単語→文→文章・図など多様に表出する場を増やす。 「聞き上手・話し上手・学び上手」の表を用いながら、話す・聞く指導をする。 	方法 (1) 「分からないことを質問したり、調べたりすることができたか」 (2) 「友達の考えを説明することができたか」 (児童アンケート) (3) 図や資料から分かったことと考えられることを分けて記述してある (ノートの記述)	(1) 「授業の中で言葉や問題の意味をとらえたり確認の場面を入れたか」 (2) 「友達の考えを説明する機会を児童全員につくったか」	
	三学期				方法		
授業以外で行う取組		<ul style="list-style-type: none"> 国、県の学力調査や12月評価問題では、国語では、国語では同音異義語の漢字の書き取り、主述の整った文章を書くことや条件に沿って要約して書くこと、算数では、四則計算や計算のきまりなどの基礎基本の定着に課題が見られる児童がいる。 	<ul style="list-style-type: none"> 国語や算数の基礎基本を定着させる時間が不十分。 教師間での「基礎基本」のとらえに、ずれがある。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々のつまずきの分析と個に応じた手立てをとる。 当該学年で身につけておかなければいけない学習事項を共通理解する。 	方法 (1) 小テストを行い、基準に満たない児童は、個別指導後伸びがあったか。	(1) 「小テストで基準に達成しなかった児童のつまずきを分析し、個に応じた手立てをとったか」 (教員アンケート)	1学期の検証 小テストで基準に満たない児童に個別指導を行うことにより、ほとんどの児童に伸びが見られた。今後も効果的な個別指導の仕方を探りながら、継続していく。
					指標 (1) 個別指導を行った児童のうち、伸びが見られた児童の数90%以上	(1) 基準に達成していない児童のうち、個に応じた手立てをとった児童の数90%以上	2学期の検証
					結果 1学期の結果 97.1% 2学期の結果	1学期の結果 100% 2学期の結果	